

# 「自動採尿機を用いた排泄ケアの環境影響比較」

評価実施者： ユニ・チャーム株式会社 CSR部環境推進室 小椋(こすぎ)信明

## ● 評価の目的と製品の特徴

- 自動採尿機を用いた排泄ケアの性能把握
- 環境影響改善に重要なプロセスの抽出

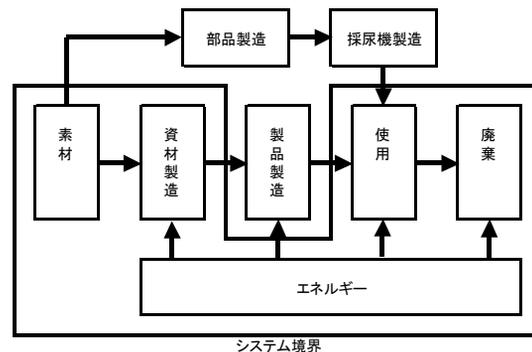


排泄ケアのうち、テープ止めおむつと自動採尿機を併用することで、尿をおむつに吸収させるのではなく、自動採尿機のポンプで吸引し、オムツを汚さず、交換回数を低減できる

- 1日分の尿はトイレに廃棄する
- 1日あたりの排泄ケアに  
従来方法(おむつ:2枚・パッド6枚)※  
自動採尿機(おむつ:2枚・パッド2枚)※  
それぞれ使用する ※:当社データ

## ● 機能単位とシステム境界

機能単位 : 1日あたりの排泄ケア  
システム境界 : 素材製造, 使用, 廃棄まで



## ● 調査方法

<インベントリ分析>

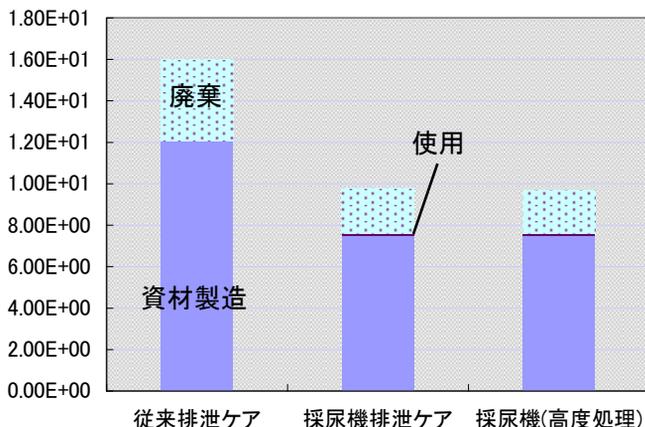
- フォアグラウンドデータ: 聞き取り調査
- バックグラウンドデータ: 関西大学 室山らデータ, LCA日本フォーラム, Jemai-LCA

<インパクト評価>

- LIME2

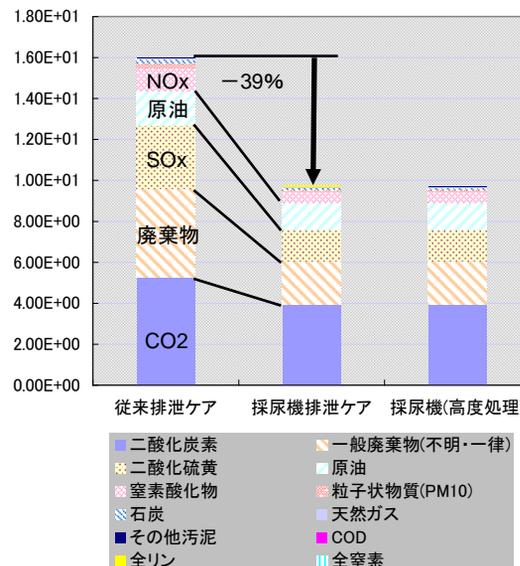
## ● 評価結果

【統合化結果(ライフステージ別)】



- 素材製造、廃棄段階の環境影響が大きい
- 自動採尿機の使用段階の影響は少ない

【統合化結果(物質別)】



- 共に、CO2、SOx、廃棄物、原油の影響が大きい。
- 廃棄物削減効果による環境影響低減が顕著。

素材製造時影響、使用后廃棄物削減が環境影響低減に貢献

本評価の限界： 製品製造、輸送段階でのデータは含まれていない。影響は多くないと考えられるが検討の必要がある。